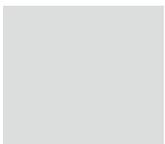
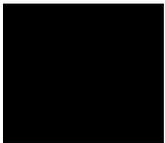


説明資料

資料1 サイン本体色のカラーイメージ例

無 彩 色	ステンカラー 	金属。他の色との協調性が高くどんな色にも馴染む。周囲の色を引き立てる調和の色。 都市的、近代的、機械的、冷たい、固い、滑らか 例) 浜松駅前サイン	
	ダークグレー 	他の色との協調性が高くどんな色にも馴染む。周囲の色を引き立てる調和の色。 静か、落ちついた、上品、寂しさ、地味、濁った 無機質、砂、石、コンクリート 例) 世田谷区用賀プロムナードサイン	
	ブラック 	周囲の色を引き締めて目立たせる。 他の色に与える影響が強い。自然界にも影として存在する色の為、景観ともなじみやすい。 強い、重い、権威、神秘的、高級感 クール、闇、沈黙 例) 大阪駅サイン	
有 彩 色	ブルー 	金空や海、水といった広大な自然のイメージ。好感度が高く、世界的に見ても一番人気が高い。好む人が圧倒的に多く嫌う人が少ない。 爽やか、開放感、清潔、涼しい、スポーツ 冷たい、寒い、冷静、悲しみ 例) 新横浜駅前サイン	
	グリーン 	木や森などの自然。リラックス。安心感や安定、調和を表す色。目に負担をかけない優しい色。控えめな色なので他の色とバランスがとれる。 エコロジー、おだやか、さわやか、やすらぎ、安全、新鮮、植物、山、若さ 例) 川崎駅前サイン	
	ダークブラウン 	伝統や歴史。木や土、大地といった自然。温もりや居心地の良さの安心感がある。 空間の中に馴染み目立たず調和する。 大地、素朴、地味、伝統、枯れ葉、渋さ、コーヒー、チョコレート 例) 大船駅前サイン	
	イエロー 	有彩色の中で一番明るい色。昼夜問わず認識しやすい。心を弾ませ楽しい気分にする。 知性を刺激し行動を活性化させる。 コミュニケーションを円滑にする。 光や太陽、イチョウ、金運、幸福、危険、注意 例) 江東区南砂町サイン	

資料2 明度差の参考色

【明度差の取れた見やすい例】



本庁舎（1階）と蒲田地域庁舎のグレー
(DIC G-269) 明度差 7.5



【明度差の取れていない見えにくい例】



(DIC G-23) 明度差 2.8



本庁舎（1階以外）のブルー
(DIC255) 明度差 6.5



(DIC2182) 明度差 2.5

資料3 カラーユニバーサルデザインへの配慮の例

【通常の見え方】

オレンジ（切れ込み1箇所）



グリーン（切れ込み2箇所）



【色覚が異なる場合の見え方】

※ P型1型での見え方をシミュレーションした場合

オレンジ（切れ込み1箇所）



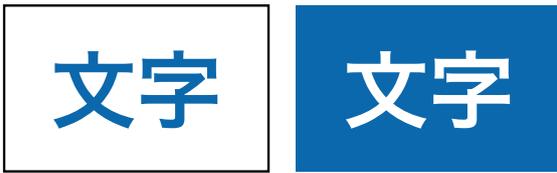
グリーン（切れ込み2箇所）



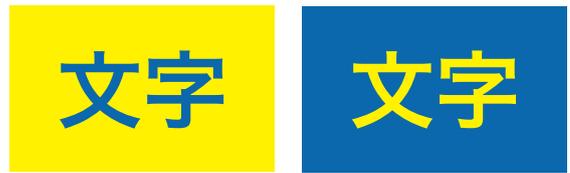
- ・ オレンジとグリーンは色覚によっては同じ色に見えてしまうことがある。
- ・ 色の違いだけでなく、帯の形状に差をつけることで色に頼らなくても違いを示すことができる。

資料4 色の組合せ

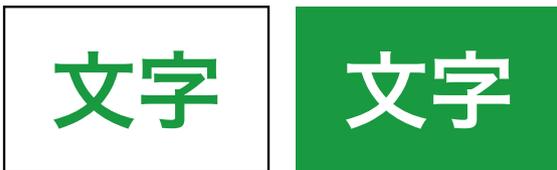
見分けやすい色の組合せ



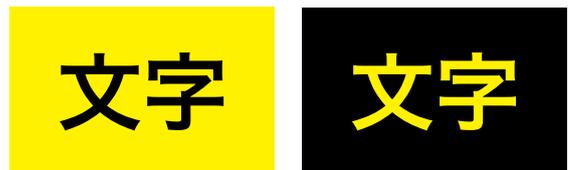
白と青



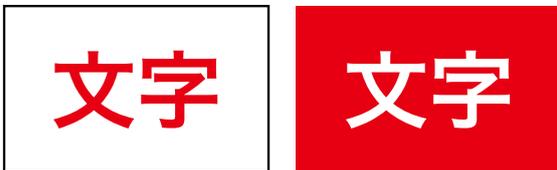
黄色と青



白と緑



黄色と黒



白と赤

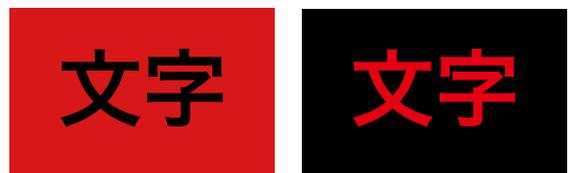


緑の明暗

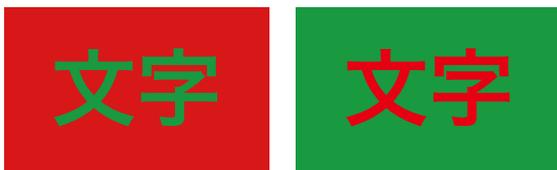
見分けにくい色の組合せ



白と黄色



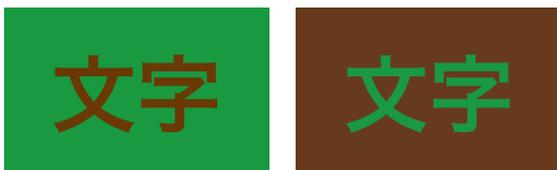
赤と黒



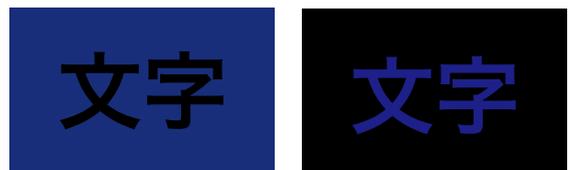
赤と緑



赤と紫



緑と茶色



濃い青と黒

資料 5 ゴシック体の例

和文書体

新ゴ

愛のあるユニークで

リョービゴシック

愛のあるユニークで

小塚ゴシック

愛のあるユニークで

ヒラギノ角ゴ

愛のあるユニークで

英文書体

Helvetica

ABCD fghijk 1234/,.

Univers

ABCD fghijk 1234/,.

Frutiger

ABCD fghijk 1234/,.

中国語書体

Sim Hei

云亚球弄琴头丰酌尹

ハンゲル書体

Dotum

십잠죵책충털통서자

資料 6 英語表記の方法

(出典:大田区組織・施設名の外国語表記の基本方針について(総務課 平成28年3月16日付))

(ア) 地名等の固有名詞

- ・原則としてヘボン式ローマ字により、発音どおりに表記する。
- ・「東、西、南、北、上、中、下、新」等の接頭語が固有名詞の前につく場合、次に続く固有名詞の間に「- (ハイフン)」を入れることができる。ただし、一体の固有名詞と考えられるものについては、ハイフンで結ばない。また、ハイフンの後の固有名詞の頭文字は大文字とする。

例 西馬込 → Nishi-Magome

上池台 → Kamiikedai

- ・外国由来の原語部分は、ローマ字ではなく、英語表記とする。

(イ) 組織名

- ・原則として、英語訳を表記する。地名等の固有名詞を含む組織名は、固有名詞部分はローマ字表記とし、組織の業務を表す普通名詞部分は英訳表記する(普通名詞部分の頭文字も大文字とする)。固有名詞の記載位置は、原則日本語名称に従う。

例 馬込特別出張所 → Magome Branch Office

- ・日本語の名称から業務内容が推測しにくいものは、業務内容を英訳して表記する。

例 学事係(学務課) → School Entrance and Guidance Section

- ・複数の部署に同一名称で存在する組織名の表記は、統一する。

例 管理係 → Management Section

経営計画 → Management Planning

- ・「部」「課」「係」の単位組織の英語表記は総務課長が別に定める一覧のとおりとし、○○部、○○課、○○係の英語表記はそれぞれを付して確定する。

(ウ) 施設名

- ・原則として、英語訳を表記する。固有名詞を含む施設名は、固有名詞部分はローマ字表記とし、施設の機能を表す普通名詞部分は英訳表記する(普通名詞部分の頭文字も大文字とする)。固有名詞の記載位置は、原則日本語名称に従う。

例 山王高齢者センター → Sanno Recreational Center for Seniors

- ・日本語の施設名から施設の機能を推測しにくいもので、外国人が日本語の音声から情報を取得する可能性があるものは、当該日本語をローマ字表記し、ローマ字の後に英語による説明的な語句を（ ）で括って表記する。括弧（ ）で括った表記を加える場合には、括弧の前に半角スペースを入れる。

例 はぎなか園 → Haginakaen (welfare center for the disabled)

ふれあいはすぬま → Fureai Hasunuma (cultural facility)

- ・日本語の施設名に愛称等が併記されている施設は、愛称をローマ字表記し、括弧（ ）で括って表記する。外国由来の原語部分は、ローマ字ではなく、英語表記とする。

例 大田区民ホール（アプリコ） → Ota City Residents Hall (Aprico)

- ・日本語の施設名にアルファベットが使用されているもの及び施設の愛称等にアルファベットが使用されているものは、アルファベット部分はそのまま表記する。

例 大田区産業プラザ (PiO) → Ota City Industrial Plaza (PiO)

区民活動支援施設 蒲田（みっくす (mics) おおた）

→ Residents Activities Support Center Kamata (mics Ota)

創業支援施設 (BIC あさひ)

→ Startup Support Facility (BIC Asahi)

(エ) ローマ字表記の方法

- ・ローマ字表記は、ヘボン式ローマ字の表記方法を用いる。

(オ) 確定した英語表記の方法

a 表記の一部省略

- ・スペース上やむを得ない場合及び地図等に記載する場合で、表記を省略しても施設・組織の内容が理解できるときは、表記の一部を省略して使用できるものとする。

b 略語の使用

- ・スペース・視認性の観点等から略語を用いることが適当と考えられる場合は、英語圏で一般的に使われている略語に限り使用できるものとする。

例 小学校 → Elem.Sch.

中学校 → J.H.Sch.

- ・国土交通省等からの通知等により、統一表記することとなった一般名詞の略語等を使用するときは、表記内容の整合を図るものとする。
- ・括弧で括った表記を加えた組織・施設名を文章の中で使用する場合は、括弧の前後に半角スペースを入れるが、「.」、「,」の前には半角スペースを入れない。

ヘボン式ローマ字の表記方法

あ	い	う	え	お
a	i	u	e	o
か	き	く	け	こ
ka	ki	ku	ke	ko
さ	し	す	せ	そ
sa	shi	su	se	so
た	ち	つ	て	と
ta	chi	tsu	te	to
な	に	ぬ	ね	の
na	ni	nu	ne	no
は	ひ	ふ	へ	ほ
ha	hi	fu	he	ho
ま	み	む	め	も
ma	mi	mu	me	mo
や		ゆ		よ
ya		yu		yo
ら	り	る	れ	ろ
ra	ri	ru	re	ro
わ		を		ん
wa		wo		n

きゃ	きゅ	きょ
kya	kyu	Kyo
ぎゃ	ぎゅ	ぎょ
gya	gyu	gyo
しゃ	しゅ	しょ
sha	shu	sho
じゃ	じゅ	じょ
ja	ju	jo
ちゃ	ちゅ	ちょ
cha	chu	cho
ひゃ	ひゅ	ひょ
hya	hyu	hyo
びゃ	びゅ	びょ
bya	byu	byo
ぴゃ	ぴゅ	ぴょ
pya	pyu	pyo
みゃ	みゅ	みょ
mya	myu	myo
りゃ	りゅ	りょ
rya	ryu	ryo

が	ぎ	ぐ	げ	ご
ga	gi	gu	ge	go
ざ	じ	ず	ぜ	ぞ
za	ji	zu	ze	zo
だ	ぢ	づ	で	ど
da	ji	zu	de	do

ば	び	ぶ	べ	ぼ
ba	bi	bu	be	bo
ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ
pa	pi	pu	pe	po

備考

1 長音

「-」(長音符号)「^」「h」は用いない。50音の「い」段の長音は、「i」を重ねて表し、「えい」は「ei」と書く。また、表音のローマ字表記が「ou」「oo」「uu」となるときに、対応する元の漢字が一文字の場合には、それぞれ「o」「o」「u」に短縮するが、二文字に分かれる場合には短縮しない。ただし短縮する表記が通用している場合には、短縮してもよい。長音符号「-」は省略する。

2 はねる音

はねる音「ン」はnで表す。

3 つまる音

つまる音は、次にくる最初の子音字を重ねて表すが、次にchが続く場合には、cを重ねずにtを用いる。

4 大文字

文の書き始め、並びに固有名詞は語頭を大文字で書く。

5 ハイフン

はねる音を表すnと次にくる母音字又はyとを切り離す必要がある場合には、nの次に「-」(ハイフン)を入れることができる。

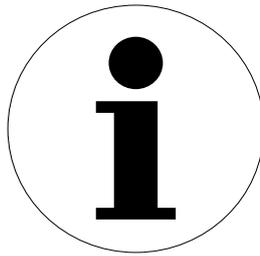
意味のかたまりや発音のしやすさ等の観点から、複数の名詞等で構成される固有名詞やoが重なる場合等は、その間に「-」を入れることができる。

資料7 JIS 案内用図記号 (JIS Z 8210)

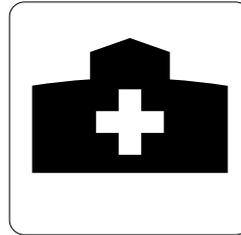
公共・一般施設 Public Facilities



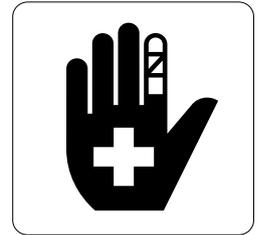
案内所
Question & answer



情報コーナー
Information



病院
Hospital



救護所
First aid



警察
Police



お手洗
Toilets



男性
Men



女性
Women



障害のある人が使える設備
Accessible facility



スロープ
Slope



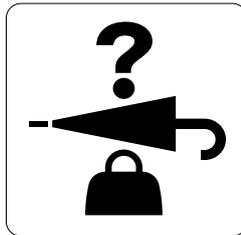
飲料水
Drinking water



喫煙所
Smoking area



チェックイン / 受付
Check-in / Reception



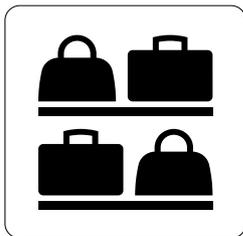
忘れ物取扱所
Lost and found



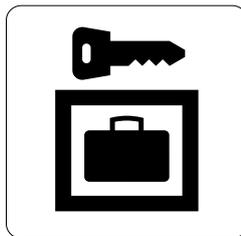
ホテル / 宿泊施設
Hotel / Accommodation



きっぷうりば / 精算所
Tickets / Fare adjustment



手荷物一時預かり所
Baggage storage



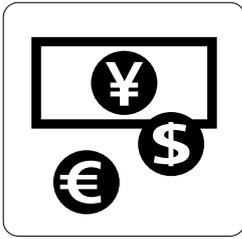
コインロッカー
Coin lockers



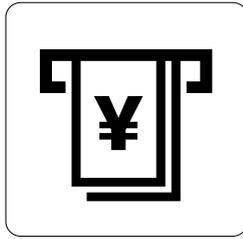
休憩所 / 待合室
Lounge / Waiting room



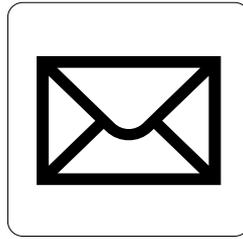
ミーティングポイント
Meeting point



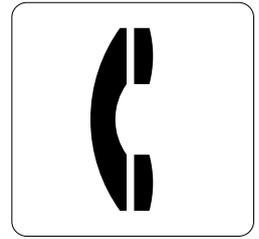
銀行・両替
Bank, money exchange
(通貨記号差し替え可)



キャッシュサービス
Cash service



郵便
Post



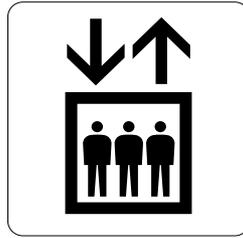
電話
Telephone



ファックス
Fax



カート
Cart



エレベーター
Elevator



エスカレーター
Escalator



上りエスカレーター
Escalator, up



下りエスカレーター
Escalator, down



階段
Stairs



乳幼児用設備
Nursery



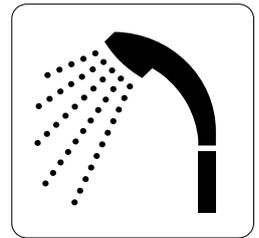
クローク
Cloakroom



更衣室
Dressing room



更衣室(女性)
Dressing room (women)



シャワー
Shower



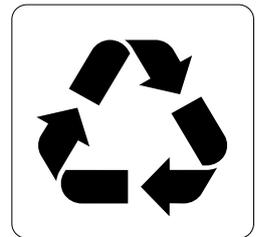
浴室
Bath



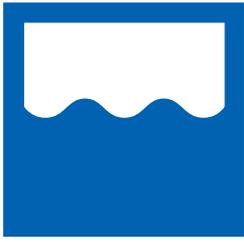
水飲み場
Water fountain



くず入れ
Trash box



リサイクル品回収施設
Collection facility for



洪水
Flood



堤防
Levee



高齢者優先設備
Priority facilities for elderly people



障害のある人・けが人優先設備
Priority facilities for injured people



内部障害のある人優先設備
Priority facilities for people
with internal disabilities,
heart pacer, etc.



乳幼児連れ優先設備
Priority facilities for people
accompanied with small children



妊産婦優先設備
Priority facilities for expecting
mothers



高齢者優先席
Priority seats for elderly people



障害のある人・けが人優先席
Priority seats for injured people



内部障害のある人優先席
Priority seats for people with
internal disabilities,
heart pacer, etc.



乳幼児連れ優先席
Priority seats for people
accompanied with small
children



妊産婦優先席
Priority seats for expecting
mothers

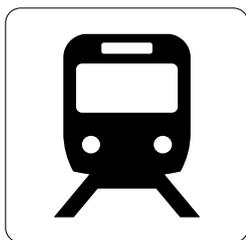


ベビーカー
Prams/
expecting mothers

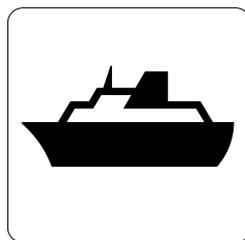
交通施設 Transport Facilities



航空機 / 空港
Aircraft / Airport



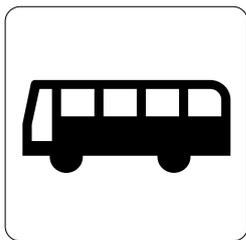
鉄道 / 鉄道駅
Railway / Railway station



船舶 / フェリー / 港
Ship / Ferry / Port



ヘリコプター / ヘリポート
Helicopter / Heliport



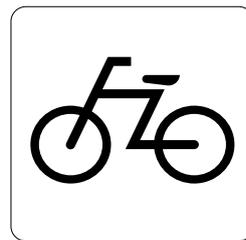
バス / バスのりば
Bus / Bus stop



タクシー / タクシーのりば
Taxi / Taxi stop



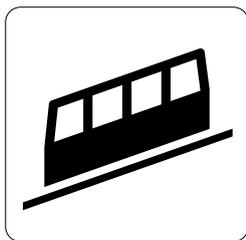
レンタカー
Rent a car



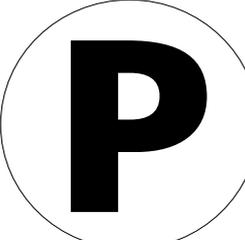
自転車
Bicycle



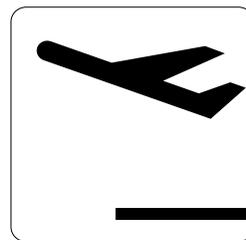
ロープウェイ
Cable car



ケーブル鉄道
Cable railway



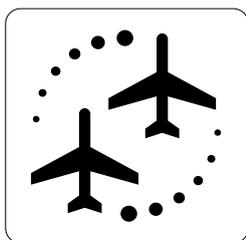
駐車場
Parking



出発
Departures



到着
Arrivals



乗り継ぎ
Connecting flights



手荷物受取所
Baggage claim

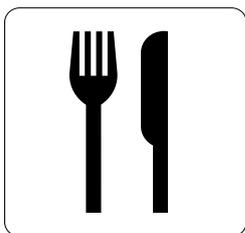


税関 / 荷物検査
Customs / Baggage check



出国手続 / 入国手続 / 検疫 / 書類審査
Immigration / Quarantine / Inspection

商業施設 Commercial Facilities



レストラン
Restaurant



喫茶・軽食
Coffee shop



バー
Bar



ガソリンスタンド
Gasoline station



会計
Cashier

観光・文化・スポーツ施設 Tourism , Culture , Sport Facilities



展望地 / 景勝地
View point



陸上競技場
Athletic stadium



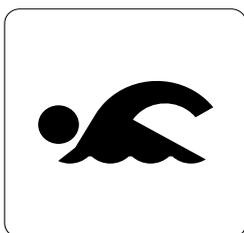
サッカー競技場
Football stadium



野球場
Baseball stadium



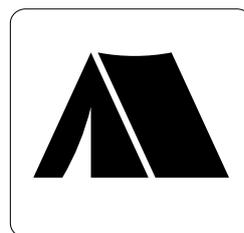
テニスコート
Tennis court



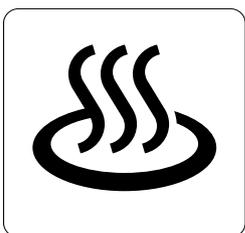
海水浴場 / プール
Swimming place



スキー場
Ski ground



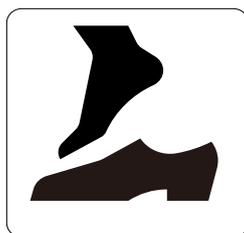
キャンプ場
Camp site



温泉



コミュニケーション
Communication in the
specified language
(言語(ENGLISH)は、他の言語及び
国旗に変更することができます。)



靴を脱いでください
Take off your shoes

安全 Safety



消火器
Fire extinguisher



非常電話
Emergency telephone



非常ボタン
Emergency call button



広域避難場所
Safety evacuation area



避難所(建物)
Safety evacuation shelter



津波避難場所
Tsunami evacuation area



津波避難ビル
Tsunami evacuation building

注意 Warning



一般注意
General caution



障害物注意
Caution, obstacles



上り段差注意
Caution, uneven access / up



下り段差注意
Caution, uneven access / down



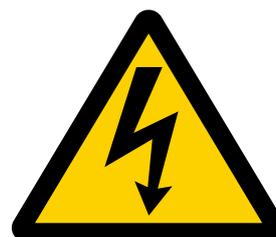
滑面注意
Caution, slippery surface



転落注意
Caution, drop



天井に注意
Caution, overhead



感電注意
Caution, electricity



津波注意(津波危険地帯)
Warning: Tsunami hazard zone



土石流注意
Warning: debris flow



崖崩れ・地滑り注意
Warning: steep slope failure, landslide

禁止 Prohibition



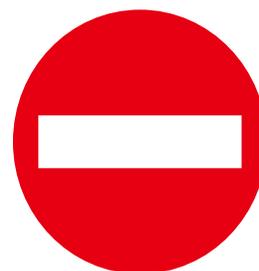
一般禁止
General prohibition



禁煙
No smoking



火気厳禁
No open flame



進入禁止
No entry



駐車禁止
No parking



自転車乗り入れ禁止
No bicycles



立入禁止
No admittance



走るな / かけ込み禁止
Do not rush



さわるな
Do not touch



捨てるな
Do not throw rubbish



飲めない
Not drinking water



携帯電話使用禁止
Do not use mobile phones



電子機器使用禁止
Do not use electronic devices



撮影禁止
Do not take photographs



フラッシュ撮影禁止
Do not take flash photographs



ベビーカー使用禁止
Do not use prams



遊泳禁止
No swimming



キャンプ禁止
No camping

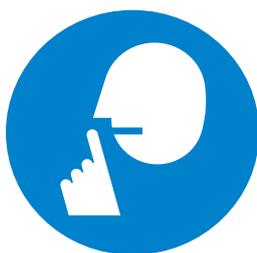


ベビーカー使用禁止
Do not use prams /strollers
(文字による補助表示が必要)

指示 Mandatory



一般指示
General mandatory



静かに
Quiet please



左側にお立ちください
Please stand on the left



右側にお立ちください
Please stand on the right



一列並び
Line up single file



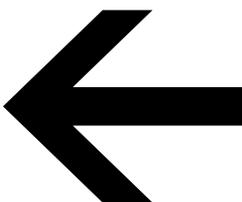
二列並び
Line up in twos



三列並び
Line up in threes

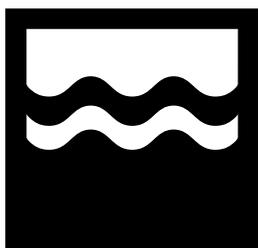


四列並び
Line up in fours



矢印
Directional arrow

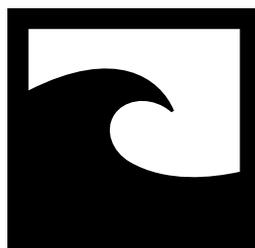
災害種別一般



洪水/内水氾濫
Flood from rivers/
Flood from inland waters



土石流
Debris flow



津波/高潮
Tsunami/Storm surges



崖崩れ・地滑り
Steep slope failure, landslide



大規模な火事
Fire disasters

(参考)

以下の図記号は JIS 規定のものではない。

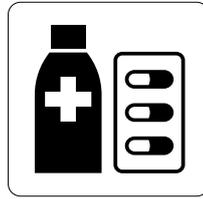
これらは表示事項と機能を変えない範囲で図材を変更することができる。



店舗 / 売店
Shop



新聞・雑誌
Newspapers, magazines



薬局
Pharmacy



理容 / 美容
Barber / Beauty salon



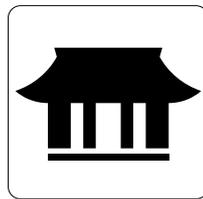
手荷物託配
Baggage delivery service



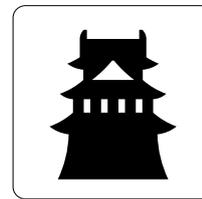
公園
Park



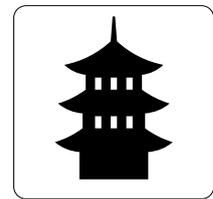
博物館 / 美術館
Museum



歴史的建造物1
Historical monument 1



歴史的建造物2
Historical monument 2



歴史的建造物3
Historical monument 3



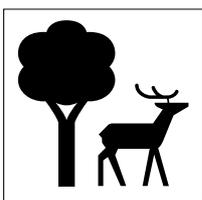
非常口
Emergency exit



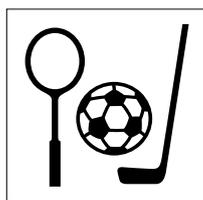
飲食禁止
Do not eat or drink here



ペット持ち込み禁止
No uncaged animals



自然保護
Nature reserve



スポーツ活動
Sporting activities



スカッシュコート
Squash court



スキーリフト
Ski lift



腰掛け式リフト
Chair lift



安全バーを閉める
Close overhead safety bar



安全バーを開ける
Open overhead safety bar



徒歩客は降りる
Foot passenger have to get off



スキーの先を上げる
Raise ski tips



スキーヤーは降りる
Skiers have to get off

資料 8 文字の大きさの目安

視距離	和文文字高	英文文字高
30m の場合	120mm 以上	90mm 以上
20m の場合	80mm 以上	60mm 以上
10m の場合	40mm 以上	30mm 以上
4～5m の場合	20mm 以上	15mm 以上
1～2m の場合	9mm 以上	7mm 以上

出典：「公共交通機関旅客施設のサインシステムガイドブック」（平成 14 年 11 月）

資料 9 地図の文字の大きさ

JR 蒲田駅 案内サインの文字高 和文 7mm

JR Kamata Sta. 案内サインの文字高 英文 5.5mm

JR 蒲田駅 最低文字高 和文 5mm

JR Kamata Sta. 最低文字高 英文 4mm

資料 10 地図に表示することが望ましい施設

施設種別			主たる地図	広域図
1 地勢	河川・水路・池等	多摩川、丸子川、呑川、内川、京浜運河、洗足流れ、洗足池など	○	○
2 道路	交差点名、橋梁名、高速道路・国道・都道の路線名・出入口名等	信号機のある交差点には信号機マークを表示 交差点名がある場合には信号機マークに交差点名を付記 道路は告示された路線名を基本とし、広く一般に使用されている通称名がある場合には当該通称名を表示 例) 路線名：都道 421 号東品川下丸子線 →  池上通り	○	△
3 交通機関	空港、鉄道路線・駅、バス停、タクシー乗り場、船着場等		○	△
4 公共施設	区施設	民間委託されている施設を含め、全ての施設を表示	○	△
	国・都の主要出先機関、交番	国・都の出先機関については、住民窓口がある施設又はランドマークとなる大規模施設を表示	○	△
5 医療機関	東京都が指定する救急医療機関、医師会診療所等		○	-
6 福祉施設	民間の特別養護老人ホーム等	面会など一定数の来訪者が見込まれる施設を表示	△	-
7 公益企業	郵便局本局、電気・ガス事業者の支店等	住民窓口がある施設又はランドマークとなる大規模施設を表示	○	-
8 宿泊施設	ホテル、旅館等	観光客・ビジネス客向けの宿泊施設を表示	○	-
9 観光資源	観光案内所、名所・旧跡、銭湯、散策路、寺社、ギャラリー等	寺社については大田区地図帳の記載に準じて表示 観光スポットについては区又は観光協会が案内している施設を基本とする	△	-
10 災害関係	帰宅困難者受入施設等		○	-
11 商業施設 民間企業	まち歩きの際にランドマークとなる大型店舗・企業ビル等		△	-

○：全ての情報を表示 △：特に主要な施設を必要に応じて表示 -：表示しない

参考資料

1	本ガイドライン策定における検討プロセス	49
(1)	案内誘導サインに関するニーズ把握	49
(2)	専門部会（ハード部会）	50
2	案内誘導サインの整備に関する既往基準	57
3	区民サービス及び移動等円滑化に関するガイドライン区民検討会委員名簿	58

1 本ガイドライン策定における検討プロセス

- ・ これまでの区のガイドラインや国や都のガイドラインを確認し、基準の整理を行った（「案内誘導サインの整備に関する既往基準の比較」(5 ページ、6 ページ) を参照）。
- ・ その中で各ガイドライン間において統一が図られていない項目や基準となるものが定められていない項目があった。
- ・ 案内表示サインの地図の見やすい位置（中心点の高さ）と、誘導サインの表示面の見やすい表示方法（板の地色と文字の色の明度差、和文と英文の比率、アクセントカラーの表示）については、国や都、区のガイドラインにおいて統一的な基準がなかった。これらの基準をベースに見やすいサイン表示について検証を行い、本ガイドラインに掲載する内容について検討した。
- ・ それらの検証にあたっては、多様な区民が参加したワークショップを開催し、案内サインのマップの掲示高さや誘導サインの見やすいサイン表示について設置箇所でも検証を行い、本ガイドラインに掲載する基準を検討した。
- ・ ここでは、その検討プロセスを区民参加の手法の事例として紹介する。

(1) 案内誘導サインに関するニーズ把握

- ・ 案内誘導サインに関するアンケート、ヒアリングを実施し、課題を抽出した。

ア アンケート

【実施時期】平成 27 年 9 月 11 日～10 月 9 日

【発送数】910 通 【回収数】190 通 【回収率】20.9%

【対象者】

- ・ 高齢者（要支援者、要介護者、その他高齢者）、障がい者（身体障害者手帳所持者、愛の手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者）、幼稚園通園中の保護者

イ 区民ヒアリング

【開催日】平成 27 年 8 月 8 日

【参加者】13 名

【内容と結果】

- ・ 避難所や電車の事故情報、多言語表示などの情報を掲示してほしい。
- ・ サインが設置されている場所の基準を決めるなど、設置位置を決め案内サインを探しやすくしてほしい。見やすく、わかりやすくしてほしい。

ウ 職員ヒアリング

【開催日】平成 27 年 7 月 24 日・8 月 19 日

【参加者】31 名

【内容と結果】

- ・案内サインは「観光案内サイン」をベースに整理する。誘導サインは、既存の矢羽根サインをベースに整理するよう要望された。
- ・デザインには地域らしさを組み込む。担当者が実務で使える整備基準にするよう要望された。
- ・デザインの統一、何を統一させるのか検討が必要だと指摘された。
- ・整備基準が必要との声があった。
- ・メンテナンス性を考慮した素材にすることが求められた。

(2) 専門部会（ハード部会）

- ・(1) で記載したニーズ把握の後、見やすい、読みやすい案内誘導サインについて、多様な区民が参加した専門部会を開催し、屋内及び屋外（区が管理する道路）で検討を行った。
- ・その検討プロセスを、区民参加の手法の事例として紹介する。
- ・なお、専門部会の参加者は次のとおりである。
学識経験者、高齢者、視覚障がい者、肢体不自由者、聴覚障がい者、知的障がい者の家族、精神障がい者の家族、公募区民

ア 平成 27 年度

(ア) 第 1 回専門部会

【開催日】平成 27 年 10 月 29 日

【参加者】計 33 名（区民等 23 名、区職員 11 名）、事務局 10 名

【内容と結果】

- ・案内サインでは高齢者・小学生・知的障がい者等にもわかりやすいこと（ピクトグラムを活用、現在地の明示）等、誘導サインでは色彩について指摘された。

(イ) 第 2 回専門部会（ワークショップ）

【開催日】平成 27 年 11 月 12 日

【参加者】計 31 名（区民等 20 名、区職員 11 名）、事務局 8 名

【内容と結果】

- ・Luz 大森周辺のまち歩きを行い、案内誘導サインを実際に見て課題を抽出した。
- ・その結果視認性、表記の統一、文字の読みやすさ、現在地、避難場所、ピクトグラム等の改善点が指摘された。

(ウ) 第3回専門部会（ワークショップ）

【開催日】平成27年12月16日

【参加者】計23名（区民等15名、区職員9名）、事務局8名

【内容と結果】

- ・案内誘導サインの連続性・設置位置の適切性についてアプリコ周辺を歩いて確認した。その結果連続性、設置場所、高さなど読みやすく、わかりやすい案内が必要なこと、掲載情報が多くなりすぎないようにすることなどの指摘がされた。

(エ) 第4回専門部会（ワークショップ）

【開催日】平成28年2月12日

【参加者】計23名（区民等19名、区職員13名）、事務局8名

【内容と結果】

- ・案内誘導サインのデザイン、配置、掲載情報等本ガイドラインの内容について検討した。
- ・今後の検討方法などについて指摘された。

イ 平成28年度

(ア) 第1回専門部会（ワークショップ）

【開催日】平成28年9月14日

【参加者】計20名（区民等12名、区職員8名）、事務局5名

【内容と結果】

- ・案内サインの地図の見やすい位置（中心点の高さ）と、誘導サインの表示面の見やすい表示方法（板の地色と文字の色の明度差、和文と英文の比率、アクセントカラーの表示）について検討を行った。
- ・会議室の壁に矢羽根およびマップの印字シートを貼り付けて確認後、各自確認票に記入。その後4グループに分かれ話し合いを行い、まとめた内容を発表し意見交換を行った。



① 和文と英文の文字高の比較



- ・ B の和文：英文が10：5のものが、より見やすいと選択した人数が多かった。
- ・ 余白の部分によって漢字が目立つ比率のものが見やすかったとの意見もあり、文字高の大きさと共に余白の重要性もわかった。

② サインの地と文字の明度差



- ・ コントラストのついた C を見やすいとする人が多かった。
- ・ 板面の色は設置箇所のまちなみの色や時間帯によっても変わるのではないかという意見も多かった。

③ 地図の中心点の高さ



- ・ 目線の高さに合わせて B の 1350mm の方が見やすい人が多かったが、車いす使用者にとっては B では上の方が光の反射等で見にくいということがわかった。
- ・ ヒアリングから立位での A の低い位置での見にくさの程度は、困難なほどではないことがわかった。

④ 矢羽根サインの表示面のデザイン



- ・ 帯の有無については、見やすさの点と親しみやすさの点で、帯ありの方が好意的に捉えられていることがわかった。
- ・ 現在の帯色は、地色を濃くした場合に明度差がなく見にくい、暗いといった意見もあった。

(イ) 第2回専門部会（サイン部会ワークショップ）

【開催日】平成 28 年 10 月 5 日

【参加者】計 22 名（区民等 12 名、区職員 10 名）、事務局 8 名

【内容と結果】

- ・現地にてモックアップの確認、また現状の案内誘導サインとの比較を行った。
その後蒲田地域庁舎の会議室へ戻り、意見交換を行った。



① 地色と文字色の明度差

《薄いグレー地（既存）と濃いグレー地の比較》



既存サイン

（地色 :N4.6 程度
明度差：明度スケール 4.4 程度）



濃いグレー地サンプル

（地色 :N2.3 程度
明度差：明度スケール 7.5 程度）



- ・屋内の調査同様、屋外でも明度差を確保しグレーを濃くしたほうが見やすいという意見が多かった。

② 文字のバランス

《文字高 80mm と文字高 65mm の比較》



既存サイン
(文字高 80mm)



濃いグレー地サンプル
(文字高 65mm)



- ・ 和文英文の文字高比率は同じ 10 : 5 だが、板面に対し和文の文字高を 4 割に抑え余白をとったものの方が読みやすいとの意見が多かった。
- ・ 表記の文字数が多く、長体（細長く）なった場合の読みにくさも指摘が多く、掲載内容に優先度をつけた表記が求められた。

③ 帯の色

《濃いグリーン帯（既存）と明るいグリーン帯の比較》



既存サイン
(濃いグリーン帯)



濃いグレー地サンプル
(明るいグリーン帯)

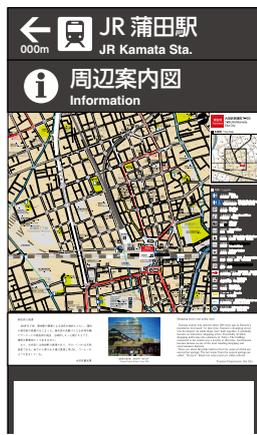


- ・ 帯色についても板面と明度差を確保した方が見やすくなるという意見が多かった。

④ 地図の高さ

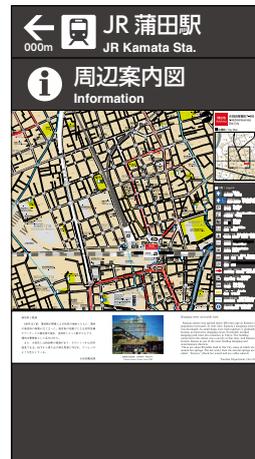
《中心点が 1250mm と 1350mm の比較》

《足元パネルの有無の比較》



既存の地図の位置

（地図の中心点 :1250mm）
（足元パネル無）



少し高めの地図の位置

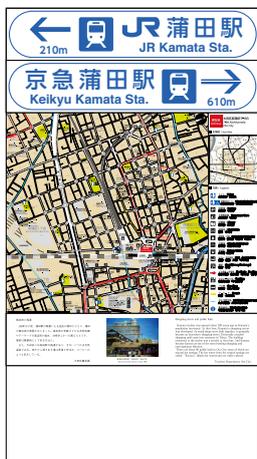
（地図の中心点 :1350mm）
（足元パネル有）



- ・現状及びサンプルパネルで確認したところ、中心点 1250mm のマップで見え方に支障はないということがわかった。
- ・パネルがあっても車いすで近づけるので、足元パネルの有無は見え方に影響しないことがわかった。

⑤ 案内サイン上部の誘導表示の見やすさ

《白地に青文字（既存）と濃いグレー地に白文字で比較》



既存サイン
(白地)



濃いグレー地サンプル



- ・現状及びサンプルパネルで確認したところ、濃いグレー地より白地の方が見やすいという回答が多かった。

(ウ) 第3回専門部会（区民からご意見をうかがう会）

【開催日】平成28年12月26日

【参加者】参加者：計38名（区民等38名）、事務局14名

【内容と結果】

- ・本ガイドライン素案を確認。ピクトグラム、ふりがな、色彩計画について指摘された。特にピクトグラムについては国や都でも検討中であり、今後の方向性に沿うことが確認された。

2 案内誘導サインの整備に関する既往基準

- ・案内誘導サインの整備に係る、既往の公的な規定、ガイドライン等を取りまとめた。

指針・文献名	発行	発行者
観光活性化標識ガイドライン	平成 17 年 6 月	国土交通省
道路案内標識改善方針（案）	平成 25 年 9 月	国土交通省
増補改訂版 道路の移動等円滑化整備ガイドライン	平成 23 年 8 月	一般財団法人 国土技術研究センター
ひと目でわかるシンボルサイン 標準化案内用図記号ガイドブック	平成 13 年 12 月	公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団
公共交通機関旅客施設のサインシステム ガイドブック	平成 14 年 11 月	公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団
バリアフリー整備ガイドライン（旅客施設編）	平成 25 年 10 月	公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団
道路標識設置の手引き	平成 25 年 4 月	一般社団法人 全国道路標識・標示業東京都協会
外国人にもわかりやすい まちの表記に関するガイド	平成 15 年 8 月	東京都
国内外旅行者のためのわかりやすい 案内サイン標準化指針（歩行者編）	平成 27 年 2 月	東京都
大田区公共サインデザイン基準	平成 2 年 9 月	大田区
大田区観光案内サイン計画	平成 22 年 1 月	大田区
区立施設のサイン整備ガイドライン	平成 28 年 4 月	大田区
大田区サイン基本計画 ～大田区サイン整備の基本的考え方～	平成 26 年 8 月	大田区
大田区組織・施設名の 外国語表記の基本方針について	平成 28 年 3 月	大田区
大田区案内誘導サイン整備指針	平成 29 年 3 月	大田区

3 区民サービス及び移動等円滑化に関する ガイドライン区民検討会委員名簿

学識経験者	会長	東洋大学教授	高橋 儀平
	副会長	東洋大学教授	川内 美彦
	委員	東京大学大学院准教授	松田 雄二
		東洋大学准教授	菅原 麻衣子
日本大学助教		江守 央	
区民団体等代表		大田区シニアクラブ連合会	
		特定非営利活動法人 大身連	
		大田区知的障害者育成会	
		大田区精神障害者家族連絡会	
		大田区自治会連合会	
		大田区商店街連合会	
		一般社団法人 大田観光協会	

(順不同)

発行

大田区 まちづくり推進部 都市計画課

〒144-8621 東京都大田区蒲田 5-13-14

TEL : 03-5744-1332 FAX : 03-5744-1530
